



京都教区時報



京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2頁 こんにちは神父さん (ホセ・アントニオ・クレマ神父)

3頁 2019年度 京都司教区聖書講座 案内

2019年 司教年頭書簡を読む(1)

旧約聖書の外国人

本年の司教年頭書簡は「教会の《もてなし》の使命、国籍を越えた神の国をめざして」というタイトルです。「はじめに」の後に、9つの章がありますので、今月号から9回に渡って、1章ずつ、味わってきたいと思えます。

今月は第1章「旧約聖書の外国人」をみていきます。年頭書簡には「自分の本来の場所、祖国、家から離れて生きる辛さの体験が聖書の人々の原体験であり、それがまさにアブラハムの子孫のエジプトでの奴隷生活でした」とあります。アブラハムの父、テラの故郷はカルディアのウルという場所でした。しかし、一族はウルを旅立ちハランに移住しました。テラはハランで亡くなりましたが、息子アブラハムに神が呼びかけます。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい」(創世記12・1)。アブラハムはこの声に従って旅立ちました。



アブラハムの旅

こうしてアブラハムはカナンの地に定住しましたが、孫のヤコブの時代にエジプトに下り、寄留者として、その子孫は、いつしか奴隷状態を味わうこととなってしまいます。ここに神がモーセを遣わして、エジプトの過越しによって民が救われ、神と民とはシナイ山で契約を結びました。その契約の中の一文が年頭書簡で引用されている「寄留者を虐待したり、圧迫したりしてはならない。あなたたちはエジプトの国で寄留者であったからである」

3
2019

(出エジプト22・20)という掟なのです。その契約の言葉はさらにこう続きます。「寡婦や孤児はすべて苦しめてはならない。もし、あなたが彼を苦しめ、彼がわたしに向かって叫ぶ場合は、わたしは必ずその叫びを聞く」(同22・21、22)。年頭書簡にあるように、「イスラエルの神は、外国人(寄留者)だけでなく、孤児や寡婦など身寄りのない、貧しい人々の叫びに特に耳を傾けられる」神なのです。

ところで、年頭書簡は、イスラエルの外国人に対する関係が「恐れ」から「尊重」へ、「敵」から「客」、さらに「友人」と見なされていった、と指摘しています。「恐れ」は、たいていの場合、相手を知らないことに起因していると言えます。どのような場合にも私達に必要なのは未知の相手を知ろうとする努力なのではないでしょうか。そして、聖書はこう語ります。「愛には恐れがありません。愛は恐れを締め出します」(Iヨハネ4・18)。

(菅原友明)

こんにちは神父さん

ホセ・アントニオ・クレマ 神父



所属 フィリピン宣教会
生年 1977年
叙階 2015年

主イエス・キリストの愛と平和が、皆さんと共にありますように！
私は、ホセ・アントニオ・クレマ神父で、フィリピン宣教会(MSP)に所属しています。1977年6月23日、マニラ市で生まれました。司祭になる前には、マニラ市内にある幾つかの会社で、会社員として働きました。25歳でMSPの神学校に入りましたが、神学は近くにあるタガイタイ市のSVD (Society of Divine Word) の神学校で学びました。

正直なところ、神学校での生活は、私にとって容易ではありませんでした。司祭職の召命と家族との両方の問題で、試練や困難に直面しましたが、神さまの恵みといつくしみ

によって、2015年4月30日に司祭叙階されました。

現在は、京都教区の山城ブロックで司牧をしています。日本で宣教活動の一端を担うのは、特に、この地の人々の言語で、主イエス・キリストの福音を伝え、諭し、広め、宣教することは、とてもやりがいのあるものです。

私はどのようにして宣教師としての意欲を維持しているのでしょうか？
今はまだ多くの限界があるので、自分が持っているものだけを、自分が出来る範囲で、楽しみながら歩みを進めています。祈りを通して、いつも神さまとつながり、祈りによって、神さまは私と共におられ、力をお与え下さる感じます。祈りは、私に任された使命を全うするために、私が必要とするすべての恵みを授けて下さる神への感謝を持ち続けさせてくれます。

2019年度 京都司教区聖書講座

旅する神の民

私たち皆 寄留人

—共に住み、共に歩む—



バビロン捕囚

期 間：2019年5月～11月 (全11回、8月休講)

日 時：(木) 10:30～11:50

会 場：カトリック河原町教会地下 ヴィリオンホール

	木・昼	テーマ	講 師
1	5/23	共に生き、共に住み、共に歩む 共観する、私たち寄留人	大塚喜直 (京都教区司教)
2	6/13	創世記 (一つの家族であったのに)	村上透磨 (京都教区)
3	7/11	アブラハムの旅 (神が示された地へ)	柳田敏洋 (イエズス会)
4	7/25	過越の旅 出エジプト (神が約束された地へ)	一場 修 (マリスト会)
5	9/12	バビロン捕囚 (解放-祖国への回帰)	阿部仲麻呂 (サレジオ会)
6	9/26	あなたの隣人とは誰か	奥村 豊 (京都教区)
7	10/10	あなたの神とは誰か	菅原友明 (京都教区)
8	10/24	聖家族の旅	澤田豊成 (パウロ会)
9	11/7	イエスの過越 (栄光への道)	西 経一 (神言会)
10	11/28	旅する神の民 (全世界に行って…私は共にいる)	鈴木信一 (パウロ会)
11	12/5	感謝と派遣のミサ	聖書委員会

会 費：4,000円 郵便振込みにて5月7日(火)までに下記宛
振込口座 00910-9-148401 カトリック京都司教区聖書委員会

問合せ：TEL. 075-211-3484 (水、木の10時～16時)

FAX. 075-211-3910 e-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

主 催：カトリック京都司教区聖書委員会

京都教区本部事務局 (2019年2月～4月の問合せ)

TEL. 075-211-3025 e-mail: honbu@kyoto.catholic.jp

2019年 奈良ブロック聖書講座 「みことばを生きるために」 シリーズ 17

テーマ 「神と出会い、救いの歴史に触れる」
—— 典礼暦に沿って、私たちの信仰生活の助けになるように ——

講 座 の 内 容

回	木曜夜コース	金曜昼コース	各講座のテーマ	講 師
1	4月25日 八木教会	4月26日 奈良教会	救いの歴史と典礼暦	山下 敦 神父 大分教区
2	5月9日 郡山教会	5月10日 奈良教会	主を待ち望む 待降節	柳本 昭 神父 京都教区
3	5月23日 八木教会	5月24日 奈良教会	インマヌエル 主の降誕、公現、洗礼	柳田 敏洋 神父 イエズス会
4	6月13日 郡山教会	6月14日 奈良教会	悔い改め 四旬節、聖週間	奥村 豊 神父 京都教区
5	6月27日 八木教会	6月28日 奈良教会	主は生きておられる 主の復活、昇天、聖霊降臨	菅原 友明 神父 京都教区
6	7月11日 郡山教会	7月12日 奈良教会	世の終わりまで共にいる 三位一体、聖体	一場 修 神父 マリスタ会
7	7月25日 八木教会	7月26日 奈良教会	神との出会い、旅する教会 王であるキリスト	大塚 喜直 司教 京都教区

★ 今年度は曜日に変更になりましたので、ご注意ください。

時 間：木曜夜コース 午後 7:00～8:30 金曜昼コース 午前 10:00～11:30

昼夜コースの内容は同じです。ご都合の良い方をお選び下さい。

対 象：ご家族・友人・知人をお誘い合わせの上、ご自由にご参加ください。

持参するもの 「旧約・新約聖書」

参 加 費：3,000円(全7回) 事前に郵便振込みにてお支払い下さい。

郵便振込口座＝00990-0-115473 「カトリック奈良地区協議会」

学生及び信者でない方は無料です!!

申込方法：郵便振込をもって申込み受付といたします。

振込用紙通信欄には、お名前、所属教会、電話番号と参加コース名を必ずご記入下さい。

申込締切：4月11日(木)



主 催：カトリック奈良ブロック協議会 / 協賛：京都司教区聖書委員会

お問い合わせは、善きサマリア人修道院 服部悦子へ

電話 0742-22-0017 (19時から21時まで)

カトリック京都司教区福音宣教企画室 **2019年 講座・研修会案内****病者・高齢者奉仕講座**

受講費 各回 300 円

老いや病の中で信仰を生きようとする人に奉仕することを学びながら、同時に、誰もが直面する老いや病を信仰の視点で自分のこととして考えることによって、どのような立場にあっても奉仕することができるということも学んでいきます。講話や分かち合いをヒントに自分で考え、気づき、そして奉仕していくことを目指します。

絵画を通しての祈り

受講費 500 円

絵画は美術作品でありながら、キリスト者にとっては祈りや黙想の助けとなるものです。本講座は、専門家である木村太郎氏（大阪芸術大学非常勤講師）による作品の解説と、大塚喜直司教による信仰の視点からの講話を通して、黙想のヒントを得たり、美術に興味のある一般の方が初めてキリスト教に触れる機会にもなっています。今秋から名古屋・大阪で開催される「カラヴァッジョ展」に合わせ、カラヴァッジョの作品を取り上げ、冬頃実施予定です。

「求道者に同伴する信徒」養成講座

教会を訪れ洗礼準備を始める前の段階にある人と、福音を共に読み、その人の生き方や考え方をそのまま受け入れながら、福音を分かち合うことで、その人に同伴する信徒奉仕者を養成する講座です。すでに受講された方を対象にしたフォローアップ研修会も現在企画中です。

小教区評議会役員研修会・交流会

京都教区では共同宣教司牧推進の一環として、小教区評議会役員の養成を年2回行っています。今年のテーマは「社会への福音宣教」です。

- 小教区評議会役員研修会 日時：5/25（土）午後1時 会場：カトリック西陣教会
- 小教区評議会役員交流会 日時：9/7（土）時間未定 会場：カトリック西陣教会

各講座の日時・会場は決まり次第京都司教区福音宣教企画室ホームページ・ちらしでお知らせいたします。

お問い合わせ／カトリック京都司教区福音宣教企画室 TEL 075-229-6800

2019年度 よく分かる聖書の学び**ヨハネ福音書を読む**

* 聖書について学びたい方はどなたでもいつからでも受講できます。

4 / 10 5 / 22 6 / 26 7 / 17

9 / 18 10 / 16 11 / 20 12 / 11

1 / 22 2 / 19 3 / 18

日時：毎月1回水曜日 10：30～11：50

講師：北村 善朗 神父（京都司教区）

会場：河原町教会地下 ヴィリオンホール

会費：1回300円

京都司教区聖書委員会

TEL. 075-211-3484(水、木の10～16時)

つなごうネットワーク 深めようコミュニケーション

京都カトリック 青年センター

教区中学生会

中学生を対象とした合宿を
春・冬に行っています。
リーダーとして、
青年が企画・運営を
しています。

青年センターだより 「じよばに」

行事の報告や
青年・担当司祭によるコラム
などを載せた機関誌です。
年4回発行し、
小教区にも
配布しています。

一日企画

気軽に参加できる、
一日限りの行事です。
映画鑑賞・遠足・黙想・聖書
についての分かち合いなど、
その時期に合わせた様々な
内容を考えています。

運営委員会 青少年交流会

年6回 教区内各地区の教会を
訪問し、開催しています。
青年センターの活動や
運営について話し合ったり、
その地区の信徒と交流したり
しています。

青年の集い

“YES”
司教さまとともに、
カテケージスや分かち合いを
通して、信仰を振り返ります。

“春プロジェクト”
京都教区の新青年を歓迎し、
レクリエーションを中心に
交流します。

青年センターの機能

①行事の企画、立案 ②青年活動の「相談機関」としての役割 ③青年活動に関する情報交換の場

京都カトリック青年センター

〒602-0934 京都府京都市上京区新町通一乗上ル一乗殿町 502-1 カトリック西陣教会内

TEL : 075-414-6239 FAX : 075-414-6249 E-mail : seinen@kyoto.catholic.jp

▼ HPはこちら



3月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊥㊦

よく分かる聖書の学び

日 時：13日㊥ 10:30
講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円
場 所：河原町教会

京都教区カトリック正義と平和協議会

学習会「外国人労働者の受け入れ」

日 時：9日㊤ 14:00~16:00
講 師：ビスカルド 篤子(シナピス)
場 所：西院教会

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

聖書深読(九里 彰師)

日 時：9日㊤ 10:00~16:00
参加費：2,500円

四旬節の黙想(中川 博道師)

日 時：9日㊤ 17:00~10日㊥ 16:00
テーマ：新しい創造の時
参加費：7,500円

生活の中での霊的同伴(九里 彰師)

日 時：15日㊤ 20:00~16日㊤ 16:00
参加費：6,500円

水曜黙想(Sr. ロサ)

日 時：20日㊥ 10:00~16:00
テーマ：イエスと共に過越しを祝う
参加費：3,000円

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日㊥ 14:00 / 23日㊤ 18:00 ミサ奉仕後
31日㊥ 14:00 カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日㊥ 10:00 / 28日㊥ 10:00
カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：14日㊥ 13:00~15:00
会 場：カトリック会館6階
(2月の総会后、日程・会場変更の場合あり)
問合せ：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

望洋庵 / Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：7日㊥ 19:00~21:00
指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師
参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座①

日 時：13日㊥ 19:00~21:00
指 導：大塚 乾隆師
対 象：これから洗礼を希望する青年
参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座②

日 時：12日㊥ / 26日㊥ 19:00~21:00
指 導：大塚 乾隆師
対 象：青年
参加費：200円(食事代含)

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A
毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr. 小野 恭世(イエズス孝女会)
ラジオ(KBS京都) ㊥~㊤ 朝 5:55

㊤ 朝 5:15

3月のテーマ「時のしるし」

京都南部地区 信徒養成講座

『典礼を学ぶ』

日 程：4月10日㊥ 5月22日㊥

6月26日㊥ 7月17日㊥

時 間：13:30 ~ 14:50

講 師：大塚 乾隆神父

場 所：河原町教会

問合せ：河原町教会 TEL.075 (231) 4785

信徒の方が典礼についての理解をより深めるための講座です。(秘跡について・教会の祈りについて)どなたでも参加できます。

帰天

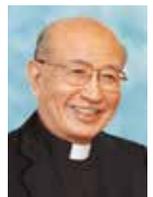
トマス・アキナス 東門 陽二郎師

(京都司教区司祭)

1月24日に帰天されました。

(享年92)

神様のため、人々のため、
教会のために長年ご奉仕く
ださいました。永遠の安息
のためにお祈りください。



※ 5月号の原稿締切り日は3月20日㊥です。

大塚司教の

3月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日(金) 10:00 四日市メリノール学院
高等学校 卒業式
- 3日(日) 11:00 長浜教会・ポルトガル語ミサ
14:00 長浜教会・英語ミサ
- 5日(火) 10:00 長岡幼稚園 感謝の祈り
(河原町教会)
15:00 青少年委員会
- 7日(水) 10:00 中央協 常任司教委員会
- 9日(土) 10:00 京都ノートルダム女子大学
卒業式
- 10日(日) 10:00 四日市教会 四旬節黙想会
- 11日(月) 11:00 トマス・アクィナス 東門 陽二郎師
50日祭追悼ミサ(衣笠)衣笠墓苑納骨式
- 12日(火) 14:00 福音宣教企画室 会議
- 14日(木) 9:30 京都聖母学院小学校 卒業式

- 15日(金) 10:00 ノートルダム学院小学校
卒業式
- 17日(日) 東京教区 関口教会
四旬節黙想会
- 19日(火) 14:00 (社福)カトリック京都司教区
カリタス会 理事会
- 20日(水) 14:00 (学法)カトリック京都学園・
京都南カトリック学園 理事会
- 21日(木) 11:00 暁の星こども園 創立50周年
- 22日(金) 15:00 (学法)滋賀カトリック学園
理事会(大津)
- 24日(日) 仙台教区 弘前教会
四旬節黙想会
- 26日(火) 15:00 教区保育者研修会 ミサ
17:00 侍者合宿
- 28日(木) 11:00 召命祈願ミサ
15:00 司教顧問会
- 29日(金) 13:30 四日市メリノール学院
理事会・評議会
- 31日(日) 10:30 西大和カトリックセンター ミサ

青年センター30周年

西舞鶴教会 小林 真衣

青年センターは、今年の1月15日に創立30周年を迎えました。いつも、たくさんのお祈りとご支援ありがとうございます。

私たちは、「つなごうネットワーク 深めようコミュニケーション」を理念として、活動しています。毎年、秋に実施している教区青年の集い「YES」や今後の活動について考える「運営委員会」は長年続いている活動の一つです。また、近年始めた「1日企画」や合宿形式で行う「春プロ」は、新しい青年たちと知り合うためには、どうしたらいいか?と考えて取り入れたものです。今までの活動を引き継ぎながら、新しい人たちを迎えるために、どんなことが必要かを青年たちで考えています。

【青年センター-HP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

先日、運営委員会で訪れた教会で青年センターの紹介をしました。すると、ミサ後に、「ジョバニの第1号の表紙を描いたんやで～」と声をかけてくださった方がいました。その息子さんがもうすぐ、青年になる歳と聞き、30年前にたくさんの方の想いで創立された青年センターをこれからも繋げていかなければならないと感じました。

青年として活動できるのは、ごく短い期間です。その間にたくさんの人と出会い、わかちあい、カトリックについて深めることができる場所を提供していきたいと思っています。ぜひ、近くに青年がいたら青年センターのことを伝えてください。

【青年センターの活動は、本誌6ページをご覧ください。】



青年センターあんでな